

横浜市主催の国際会議「第 5 回アジア・スマートシティ会議」が 11 月 18 日に みなとみらいで開催されました



アジア新興国諸都市の市長や国際機関等の有識者が一堂に会し、経済成長と良好な都市環境が両立する持続可能な都市づくりの実現に向けた議論を行う本会議に、過去最多となる 46 都市から市長を始めとするリーダーや、日本政府、国際機関等の有識者も数多く参加しました。

会議では、4つの分科会で各都市のスマートシティの取組やプログラムについて、発表するとともに、各テーマに沿った専門的な議論を行いました。各分科会の議論を持ち寄った全体会議の結びでは、議論をとりまとめた「横浜宣言」が採択され、持続可能な都市づくりへ向けた連携強化に向けて参加者の合意が得られました。



世界銀行との連携

横浜市は、都市づくりに関して世界最大の援助機関である世界銀行（本部：米国・ワシントン D.C.）が進める「都市パートナーシッププログラム」を全国で初めて活用し、新興国における都市づくりに関する、世界銀行との協力・連携を開始しました。

これまで横浜市では、Y-PORT 事業を推進し、市内企業の海外展開支援や新興国の都市課題の解決支援を進めてきており、今回のプログラムを活用することで、市内企業による世界銀行事業への参入機会創出を図り、海外インフラビジネス展開を更に促進していきます。

<http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201611/20161116-047-24383.html>

この連携の具体的な取組として、11月17日に「第1回世界銀行スマートシティ会議」が横浜で開催され、国際局国際協力部長がスピーカーとして出席するとともに、翌18日に横浜市が開催した「第5回アジア・スマートシティ会議」において、世界銀行から、プレゼンテーションしていただきました。

アジア・インフラビジネスセミナー

横浜市と公益財団法人横浜企業経営支援財団 IDEC の主催でアジア・インフラビジネスセミナーが 11 月 17 日にみなとみらいで開催されました。

「第 5 回アジア・スマートシティ会議」の併催イベントとして開かれた本セミナーでは、ADB（アジア開発銀行）が進める、水分野の取組、本市との連携、官民連携に関する取組等について、ADB 各部門や海外都市の関



係者から発表があり、セミナー後の参加者の交流会では活発な意見交換が行われました。

横浜市では企業のインフラビジネスへの参入機会の拡大に向けて ADB との連携を深めており、来年 5 月の横浜での ADB 総会開催を見据え、今後も ADB と様々な取組を進めてまいります。



市内インフラ施設の視察

横浜市が主催した「第 5 回アジア・スマートシティ会議」の一環として、11 月 16 日に会議参加者が市内のインフラ視察ツアーに参加しました。ツアーでは、鶴見区の北部下水道センターとごみ焼却工場、旭区の川井浄水場を紹介しました。



下水処理水でコイを飼育できるほどの浄化処理技術や、ごみの焼却熱で発電する高度な技術、最新鋭のろ過装置を通して出来上がる横浜の高品質な水づくりを見学し、参加者からは驚きの声があがるとともに、熱心に質問が寄せられました。

高校生のボランティア参加

会議には「世界を目指す若者応援事業」を利用して 1 年間の海外留学を経験した市内高校生も参加し、分科会のサマリー作成や資料の配付などを行いました。慣れない国際会議への参加に、緊張しながらも真剣に取り組んだ生徒たち。今後の活躍に期待しています。



- ◆これまでのアジア・スマートシティ会議の取組についてはこちら⇒<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/yport/ascc/>
- ◆「第 4 回アジア・スマートシティ会議宣言（横浜宣言）」を受け、持続可能な都市開発に向けた知見を共有するプラットフォームとして、「アジア・スマートシティ・アライアンス」が発足し、現在 Facebook ページ（※英語のみ）を通じて知見の共有を進めています。⇒<https://www.facebook.com/AsiaSmartCityAlliance/>